かさと地蔵さん

むかしむかしあるところに正直なじさまとばさまがおったそうな。ある日、じさまは柴刈りに。夕方になったら雷が鳴り、雨が激しく降ってきてな、じさまはたまらず笠をかぶって山を降りた。山のふもとに地蔵さんが立っていて、頭から雨に打たれて、びしょぬれだったと。じさまは気の毒に思って、自分のかぶっていた笠を地蔵さんにかぶせてあげた。雨の晴れた次の朝早く、じさま達の寝床に何やら歌が聞えてきた。耳をすますと、弥三郎爺(じさまの名前)弥三郎爺、ゆべなの笠ゴかんぶんだ(ありがたかった)、ようやらさ(かけ声)という歌で、その歌がだんだん近ずいてきて、家の前まで来たと思ったら、ぴったりやんだ。

じさまとばさまが起きて外に出てみると、きのう山で切ってそのままにしておいたたき木が全部入口に積まれてあってな、その上に地蔵さまにかぶせてきた笠が上っていたんだって。

トッピンパラリのプー(長野伝農善輝二年生)